

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	良く なっている やや良く なっている			
		商店街（代表者）	それ以外	・ようやく経済政策が動き出した感があるが、円安や電力会社の値上げは特に内需型産業や流通小売業にとってはマイナス材料だ。株価上昇が可処分所得の増加につながり、消費を刺激することを期待したい。
		商店街（事務局長）	来客数の動き	・人の動きが以前より活発化しており消費マインドは上向いていると思われる。しかし、公共料金、原材料の値上げや消費税増税等の先行き不安から、店頭売上には厳しさが感じられる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・春に向けて、開店・送別・卒業などの商品の予約や注文が増えている。また、繁華街の人も増えてきた。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・毎日来店する客も見受けられる。また、購入量も増えてきている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・出勤前と帰宅時に立ち寄る来店客数が伸びており、特に建設関係者の来店が増加している。身の回りでも住宅の建築工事をよく見かけるようになった。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・自動車販売市場全体は厳しさを増してきているが、軽自動車は普通自動車などに比べて落ち込んでいない。人気車種では需要に供給が追いつかず登録に結び付かないものが多い。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・2月に入り、モデルチェンジした主力車種が好調で受注・販売とも伸びているが、全体としては前年を割っている。エコカー補助金終了の影響は大きく、景気が上向いているとはいえないと思う。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・宿泊者数も宴会等も、昨年より増えてきている。景気がやや良くなってきた感があり、消費者がお金を使おうという雰囲気になっている。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・価格がやや高い商品を出したところ、予想以上に反応が良い。
	競艇場（職員）	販売量の動き	・2月の売上は、前月比22.6%減、3か月前比10.3%増、前年比1.0%減となった。引き続き堅調に推移しており、売上は前年並みか前年以上に戻りつつある。	
	美容室（経営者）	お客様の様子	・卒業式などを控え、2月後半から忙しくなっている。	
	設計事務所（職員）	競争相手の様子	・公共事業の発注量が増加しており、受注量も増えてきている。年度末は繁忙期であるが、例年以上の仕事量を受注している。	
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・バレンタイン商戦は来客数も売上もまずまずであったが、寒い日が続き春物の立ち上がりが悪く、足踏み状態が続いていると思う。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・料飲店への納品の動きが悪い。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上、外商売上ともに前年を割っているが、下旬以降は回復傾向にある。
		百貨店（総務担当）	来客数の動き	・為替が円安になり、一部の輸入雑貨が2月15日より値上げされた。それに伴う駆け込み需要があり、好調に推移している。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・寒さが続いていることから冬物はいまだ好調であるものの、春物の動きは悪く、全体として良いとはいえない。
		スーパー（店長）	単価の動き	・商品単価の下落が続いており、全般に景気は低調である。
スーパー（店長）		販売量の動き	・売上の前年比推移が3か月前と変わらない。	
スーパー（企画担当）		お客様の様子	・来店客数は前年より増えている店舗が出てきているが、購入金額が伸びないために売上高は前年を割り込む状況が続いている。価格の安い店を回る行動が定着しているように感じる。来客数増の要因にはコンビニの改装閉店も影響しているようだ。	
スーパー（財務担当）		販売量の動き	・来店客数は前年と比べて増加したが、売上は若干減少しており、トータルではほぼ前年並みである。	
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・2月は天候不順や大型ショッピングセンターの影響により厳しかった。		

	家電量販店（店員）	来客数の動き	・例年、2月はシングル需要で来客数が増えるのだが、今年は出足が鈍い。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・政府の経済政策が注目されているが、販売量は少し上向いた後に頭打ちとなった。3月の決算期を控えているが、動きが悪い。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ガソリン価格が上昇しており、新車の販売はハイブリッド車の比率が高まっている。	
	その他小売【ショッピングセンター】（副支配人）	来客数の動き	・来客数はやや増加しているが、動きに力強さが無い。	
	その他飲食【ファーストフード】（経営者）	単価の動き	・キャンペーンを開始しても以前のように来客数の増加につながらない。買い控えされているように感じる。	
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・前月比に大きな変動は見られない。	
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・週末の客が少ない傾向が続いている。客単価も下落しており、先行きも厳しい状態が続くのではないかと考える。	
	美容室（経営者）	販売量の動き	・前年同月と同じ水準である。	
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・来場者数は増えているが、受注にはつながっていない。	
やや悪くなっている	一般小売店【酒類】（経営者）	販売量の動き	・2月は一番売上の少ない月だが、料飲店の動きが例年以上に悪い。	
	スーパー（人事）	販売量の動き	・1～2月にかけて前年割れが顕著になっている。先行き不安が不要なものを買わない行動につながっている。	
	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・政府の経済対策で明るい雰囲気になっているが、まだ地方には及んでいない。来客数が伸びず、単価も落ち込んでいる。	
	旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・円安の影響で、個人や団体の海外旅行の申込がかなり減少している。海外で日本人が被害に遭った事件の影響もあるようだ。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前よりも乗客数、単価ともに悪くなっている。建設業関係の利用が少なくなっていることが、一番響いている。	
悪くなっている	一般小売店【菓子】（総務担当）	販売量の動き	・客単価が下がり、買い控え等の傾向も続いている。	
	衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・前年と比べて客単価が大幅に下がっている。購入点数は変わらないが、より安い商品の購入に流れ、全体の売上を押し下げている。	
企業動向関連 (四国)	良くなっている	食料品製造業（商品統括）	受注量や販売量の動き	・販売量が前年を上回ることが多くなり、安定しつつある。
		一般機械器具製造業（経理担当）	それ以外	・円安によって輸出採算性が向上し、価格競争力が回復している。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・再生可能エネルギーの固定価格買取制度が徐々に浸透してきているため、たくさんの受注がある。倍々ゲームのような感覚で、太陽光発電の設備工事が出てきている。
	やや良くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・東北地域からの発注や小売店での販売が、引き続き好調に推移している。最近は、低価格商品から高額商品へと売れ筋がシフトしつつある。
		木材木製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・円安・株高でムードが大分良くなっている。昨秋からの復興需要に加えて、消費税増税前の駆け込み需要も始まっている。住宅着工数が、ここ4か月前年比10%以上増加しており、明るい見通しが出てきた。
		電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・官公庁や国公立大学からの需要が増え、良くなってきた。
		通信業（部長）	受注量や販売量の動き	・年度末需要もあると思われるが、それだけでなくタブレット端末を中心とした引き合いが増えており、今後もこの傾向は続くと感じている。
金融業（融資担当）	取引先の様子	・政権交代によって株価が上昇し、公共工事も増加することが見込まれ、個人消費も増えると予想される。		
不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・最近は、問い合わせや来客数が増えている。消費マインドが上がっているようであり、不動産も、購入意欲が上昇しているように感じる。		

	公認会計士	取引先の様子	・関与先の試算表内容を見ると、若干ではあるが、赤字企業が減少している。やや回復の兆しが出てきたと感じる。	
変わらない	農林水産業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・燃油価格の高騰が生産量に影響している。	
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・依然として受注状況は悪い。特にギフト関係は引き合いも少なく、落ち込み幅が大きい。	
	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・昨年の円高の影響が現在も続いている。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注が伸びない。	
	輸送業（経営者）	取引先の様子	・株価が上昇して、雰囲気はかなり良くなっているが、中小企業には良い影響がまだ現れていない。	
やや悪くなっている	輸送業（支店長）	取引先の様子	・荷主の生産調整が再開されたことや、公共事業発注量が伸びない影響を受けている。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連 (四国)	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・短期の雇用も含まれているが、全体として求人数がやや増加傾向にある。
		求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・周辺企業において採用活動が活発になっているが、必要な人材を充足できていないケースも多い。
		職業安定所（職員）	それ以外	・1月の月間有効求人倍率は、0.95倍で、3か月前より0.07ポイント上昇している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率は過去最高水準となっている。また、正社員求人割合も上昇している。
	変わらない	人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・今の時期は、正社員の求人よりも年度末の繁忙期に合わせた期間雇用の求人が目立つ。求職者の状況を見ると、即戦力になる人材が不足傾向にあると感じる。
		新聞社[求人広告]（担当者）	周辺企業の様子	・年度末を控え、追加広告出稿が期待される時期だが、好調なのは自動車販売店くらいで、小売業や地方公共団体などは不調である。
		民間職業紹介機関（所長）	周辺企業の様子	・政権が代わって、景気の高揚感も出ているようだが、地方まで経済効果が波及してくるのは、数年先になるのではないかとという経営者が多い。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・多くの企業が新政権による金融緩和策や内需刺激策を期待しているが、实体经济の波及の遅れや中小企業金融円滑化法の終了が大きな懸念材料になっている。海外の景気減速といったリスク要因もあり、中小企業経営者は慎重な見方を崩していない。先行き不透明感から、採用募集を手控えている状況が続いている。
	悪くなっている	-	-	-